

11. 放射線学的にいわゆる球状上顎嚢胞と診断された1例

○藤井 茂仁^{*,***}, 細川洋一郎^{**}, 金子 昌幸^{**}, 松嶋 宏篤^{***}, 矢嶋 俊彦^{***}
大内 知之^{****}, 賀来 亨^{****}, 高橋 陽夫^{*****}

(*医療法人ルミエール歯科・**北海道医療大学歯学部歯科放射線学講座・***北海道医療大学歯学部口腔解剖学第一講座・****北海道医療大学歯学部口腔病理学講座・*****大分大学医学部歯科口腔外科)

【目的】放射線学的に、いわゆる球状上顎嚢胞を経験したので報告する。

【症例】

患者：25歳女性

初診：平成15年10月2日

主訴：上顎左側臼歯部違和感

既往歴，家族歴：特記すべき事項なし

現病歴：平成15年9月より上顎左側第1小白歯口蓋部に違和感があり，平成15年10月より同部に腫脹を生じたため，医療法人ルミエール歯科を受診した。

現症：上顎左側側切歯から第1小白歯の頬側歯肉に圧痛が認められたが，初診時には同部の腫脹や粘膜の異常はみられなかった。側切歯および第1小白歯は軽度打診痛を認めるも，生活反応があった。

画像所見：回転パノラマならびにデンタルエックス線写真にて，上顎左側側切歯歯根と犬歯歯根を離開する楕円形の嚢胞様エックス線透過像を認める。

病理所見：嚢胞壁の大部分は，高度の炎症細胞浸潤および著明な出血像を伴った線維性結合組織からなっており，角化を認める平坦な重層扁平上皮による裏装と，上皮結合組織中に，裏装上皮との連続性が乏しい上皮島が散見された。以上の所見より本病変は菌原性角化嚢胞に2次的に高度の炎症性変化が加わったと考えられた。

【結果および考察】球状上顎嚢胞は，従来，顔裂性嚢胞に分類される非菌原性嚢胞として定義されてきたが，1992年のWHO分類では，球状上顎嚢胞の名称を採用していない。すなわち球状上顎嚢胞は特徴的なエックス線像を示すが，病理組織学的に1つの独立した疾患と考える根拠はないと考えられており，それらは菌原性嚢胞や腫瘍であるとされている。しかし多くの臨床家が共通した臨床所見を想起するという点で，「いわゆる球状上顎嚢胞」の名称を画像診断的に用いることの意義は現在も存在していると思われる。

12. 断層回転パノラマエックス線写真に描出される嚢胞様偽像についての考察

○田中 力延，佐野 友昭，細川洋一郎，藤井 茂仁^{*}，館山 佳季^{**}，金子 昌幸
(北海道医療大学歯学部歯科放射線学講座・*医療法人ルミエール歯科・
**サッポロファクトリーデンタルクリニック)

【目的】断層パノラマエックス線写真において描出される偽像は誤診の原因となるが，その出現部位は特定されている。しかし近年，嚢胞様の類円形エックス線透過像を示す偽像が不特定に出現することを我々は経験していた。そこで，これら偽像の出現原因を検討した。

【症例1】20歳女性。右側下顎側切歯と犬歯の歯根間に円形の透過像をパノラマ上で認める。隣接する歯根は圧排されて傾斜しているようだが，吸収は認められない。しかし，臨床的に異常所見はなく，デンタルフィルム上でも同部位に異常透過像は認められなかった。

【症例2】56歳女性。両側下顎第一大臼歯根尖部に境界やや不明瞭な透過像をパノラマ上で認めるが，同部の歯

や歯周組織に臨床的な異常所見は見られなかった。

【症例3】69歳女性。左側上顎残存歯牙の違和感を主訴に来院。同側上顎洞内にパノラマ上で嚢胞様の所見を認める。

【考察】断層パノラマエックス線写真は歯科で広く用いられている診断用画像であるが，断層領域から外れた部分の形態を正確に描出することは出来ない。今回我々は，顎骨の形態により特殊な偽像を呈する2症例を体験したので，CTなど他の画像所見を加えて偽像の原因を追求したので報告する。